

「知多農村女性のつどい」15年の歩み

～知多地域の女性農業者による「男女共同参画社会」実現にむけた取組～

梶田清美（知多農林水産事務所農業改良普及課）

【要約】

【平成28年4月掲載】

知多地域では、「男女共同参画社会の実現」を地域全体で推進するため、平成13年度から農業改良普及課が働きかけ、女性農業者3団体が一堂に会して「知多農村女性のつどい」を15年間にわたり開催してきた。講演会や活動事例発表、意見交換を通してお互いの活動を共有することで各組織活動が活発になると同時に、市町担当者に参加してもらうことにより女性の意見や活躍の状況を理解してもらい、女性の方針決定の場への推進へつながるよう、農業改良普及課が支援した結果、女性農業者が地域農業の活性化に前向きになり、社会参画も進むなど成果がみられた。

1 はじめに

平成11年6月に国の「男女共同参画社会基本法」が制定され、農林水産分野においても、個々の農業経営の発展や地域社会の活性化に向けて、女性の積極的な参画が重要な課題となった。このような中、平成13年度から、農業改良普及課が知多地域の女性農業者3団体、「愛知県農村生活アドバイザー協会知多支部」、「農村輝きネット・ちた」、「JAあいち知多女性部」による「知多農村女性のつどい」の開催を働きかけ、男女共同参画社会の実現に向けて、研修会や意見交換等の実施を支援した。

2 「知多農村女性のつどい」の運営方法

(1) つどいを構成する3団体の概要

ア 愛知県農村生活アドバイザー協会知多支部

優れた能力・豊かな人間性を持ち、積極的に地域の活性化に貢献して活躍している女性農業者として「農村生活アドバイザー」の知事認定を受けた方のうち、知多地域（5市5町）在住の認定者で組織された団体である。

（平成27年度現在52名 ※うち他団体との重複は24名）

イ 農村輝きネット・ちた

常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町の4市3町で、農産加工や生活技術の研究、農産物直売などに取り組む女性農業者組織である。

（平成27年度現在22名 ※うち他団体との重複は9名）

ウ JAあいち知多女性部

知多地域の5市5町で、健全な食と農を次代に引き継ぐため、相互の知恵をJAに結集し、地域・地区の女性部活動を通じてJA運営及び社会参画を進める女性組織である。「一人ひとりが主役」を合言葉に、部員であるという意識の高揚を図っている。

（平成27年度現在6,919名 ※うち他団体との重複は31名）

(2) 3団体代表による実行委員会立ち上げの支援

「知多農村女性のつどい」を自主的に運営できるよう、農業改良普及課が平成13年度に各団体の代表2名、計6名で構成する実行委員会の立ち上げを支援した。

「男女共同参画の推進」は農村生活アドバイザーの活動の重要課題であるため、愛知県農村生活アドバイザー協会知多支部長が実行委員会の代表として運営の中心となるよう働きかけ、実行委員会を年に3回開催し、3団体がそれぞれの立場で共通意識を持って取り組むよう支援した。

(3) 「知多農村女性のつどい」の取組

つどいでは毎回スローガンを決め、その年のスローガンに合わせた先進事例等の講演会と各団体からの事例発表を行ってきた。そして自らの組織活動を振り返るとともに、他団体の活動を参考にして、組織を改善してきた。また、市町担当者にも参加していただき、各団体の活動を理解してもらう場とした。

直近5年分（平成23年度～平成27年度）のスローガンを表1に示した。

表1 「知多農村女性のつどい」で取り上げたスローガン

| 年 度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-------|---------------|------------------|--|----------------------------------|-----------------------|
| スローガン | 男女共同参画 食と農 | 六次産業化 女性の能力発揮 | 「ウチのウリ」 を考えよう！ 埋もれない食 品作りのヒ ント | 地元農産物を 活かした女性 の役割と能力 発揮 | 地域の活性化 は女性がつく る |

平成23年度は、料理研究家による「仕事を持ってはつらつと生きる女性へアドバイス」の講演で、「女性も手に職を持ち、強く生きる」が重要であり、使命を持って生きることが女性としての生きがいであることを学ぶとともに、3団体の活動発表を行った。

平成24年度は、6次産業化に視点をあて、食空間コーディネーターの「“価値”を生み出すコーディネート」と題した講演を聴き、商品の価値を高めるためには、消費者が購買意欲をもたせるイメージ作りが重要であることを学んだ。

平成25年度は、地元企業である「(株)ミツカンMD本部」の製品企画部と「(株)ダイニチ」の商品開発担当を講師に招き、試食会を交えた講演会を実施した。食品のアレンジや視点を変えた活用など、加工のアイデアについて学ぶことができた。

平成26年度は、普及指導員のOGより「地元農産物を活かした女性の社会参画を進めるために」と題した講演で、農産物を販売する時の消費者目線による販売方法や加工品の開発等、女性の意見を取り入れることにより、個々の経営アップのみならず、地域農業活性化へ繋がることを学んだ。また、3団体の活動発表と市町別討議も行った。

平成27年度は、つどいの構成3団体の活動発表を通じた相互の活動理解に加えて、今回参加していただいた女性農業委員やJAあいち知多女性理事らにも活動を理解していただいた。また、市町別に討議活動事例交換を行ったことで、参加者には、相互の団体活動だけでなく、農業委員や農協理事の役割や具体的活動を理解できる良い機会となった。

つどいの最後には、男女共同参画、家族経営協定、方針決定の場への参画等、3団

体が取り組む5項目の大会宣言を毎回必ず行い、「男女共同参画社会の実現」という目標を確認した。



平成 25 年度の試食会の様子



大会宣言の様子

また、つどいの終了後には反省会を開催し、3団体で大会の改善点や課題を話し合い、次年度に繋げた。15年間「知多農村女性のつどい」が続いたのは、反省会で「次年度の開催」を検討したことと、愛知県農村生活アドバイザー協会知多支部の行事に「知多農村女性のつどい」を位置付け、支部長が実行委員会開催の声掛けをするといった流れを農業改良普及課が支援してきた結果である。

3 「知多農村女性のつどい」15年間の継続の成果

女性農業者3団体が共同して「知多農村女性のつどい」に取り組んだことにより、お互いの新しい交流が生まれた。特に、平成23年度からは市町別分科会を開催することにより、さらにお互いの活動が理解でき、市町ごとに団体の枠を超えた食農教育や若い女性農業者の指導ができた。3団体の女性がお互いに切磋琢磨し、刺激しあい、個々の意識が高まった。また、それにとどまらず、農協の理事や各市町の農業委員など関係機関における女性の登用が進むなど大きな成果が得られた。